

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
備前市	大内	令和4年1月25日	

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	35.7ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	24.7ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	13.1ha
うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	7.5ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	ha
(備考)アンケート回答率98.1% 現状において、70才以上の所有者は39人/81人、割合は48.1%	

- 注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。  
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。  
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。  
注4:プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

<p>大内地区の現状を話し合い、長所と課題を洗い出した。</p> <p><b>大内地区の長所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然環境:整備されたほ場・水の便が良い(基盤整備地域)・砂地で水稻に適している</li> <li>○地域連携:営農組織・組織での共同作業・地権者にも協力を求めている</li> </ul> <p><b>大内地区の弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢化担い手不足・後継者がいない</li> <li>○ほ場未整備地域 耕作放棄の増加・不定形地・水の便が悪い</li> </ul> <p><b>農業全般の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○米価下落・収益でない・各種農業政策と現場の想いの乖離・行政、農協の指導不足</li> </ul>
---

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地域組織を中心に農地を維持していく
-------------------

## 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(話し合いに基づく取組の方向性)

<p>非農家も含め地域ぐるみで農地保全の意識を持ってもらえるよう、共同作業を引き続き行う。</p> <p>組織自体も高齢化しており、新たな担い手を求める。</p> <p>基盤整備されていないところは、水稻以外の作付も検討が必要。</p>
--